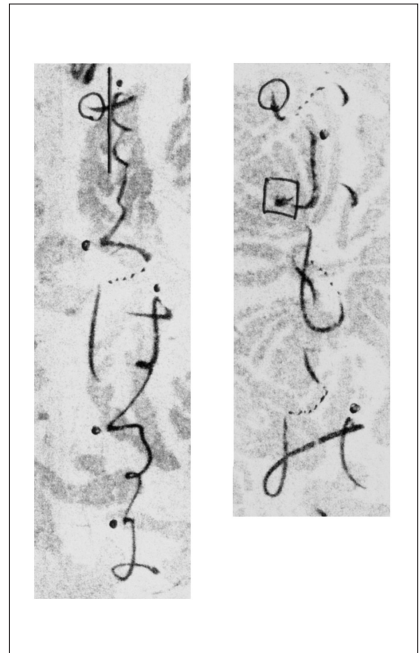


◆半紙二行たて書きに臨書して下さい。出品料440円

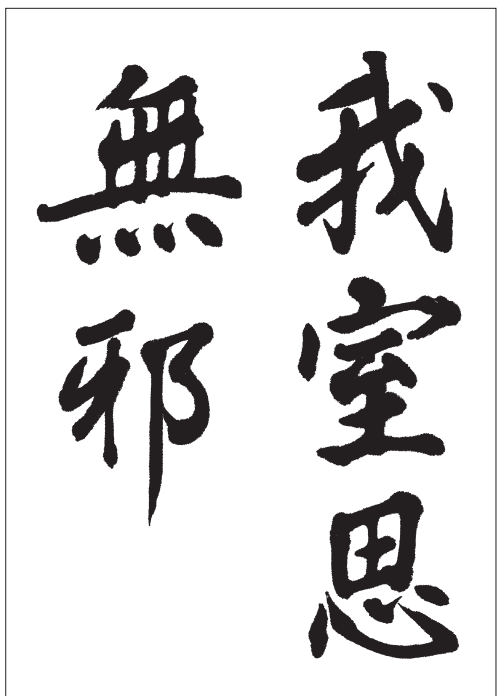


ぎよぶつ 御物と漢朗詠集

- 1、字句||いふも、能の さくはるに 尔
 - 2、形式||半紙をたてに使い、小筆で二行に臨書する。落款は左余白に本文に添う大ききで「〇〇臨」と入れる。
 - 3、概観||第一回で紹介したように、尾上柴舟(一八七六〜一九五七)が和漢朗詠集を「かな習得の Handbook」とした理由の一つは、端正な字形にありません。やたらに形をゆがめたり、線の省略からくる形の崩れなどは殆んど見られません。そして、第一回で体験したように、一文字の中に仮名としての基本的な筆使いをきちんと学ぶことのできる要素が存在しています。また、連綿なども無理なく行われ「これぞ連綿の基本」と納得させられます。
 - 4、学習のポイント: 単体を学び直す(その2)
- ◎軸を立てて穂先が常に線の中央を通るようにする。収筆から次の文字の起筆へ、つながりを感じながら筆を運ぶ。
- 『い』スーッと入り(〇)二筆目の収筆は「ふ」に向かう。『ふ』起筆(・)で軽く突く。二筆目の方向に注意(□)「も」の二筆目と「、」(おどり字・直前の文字の繰り返し)の意)は、天女の羽衣が紙に触れて舞い上がるように書く。『能』(・)で穂先を立て突くように。『さ』二筆目の起筆と三筆目の位置に注意。『く』は「久」を意識し(・)で軽く止まって折れる。収筆は静かに次の一筆目へ。『は』の収筆は「る」の起筆へ向かい(・)で止める。『る』の収筆も「尔」の起筆へ向かい(・)で軽く止める。

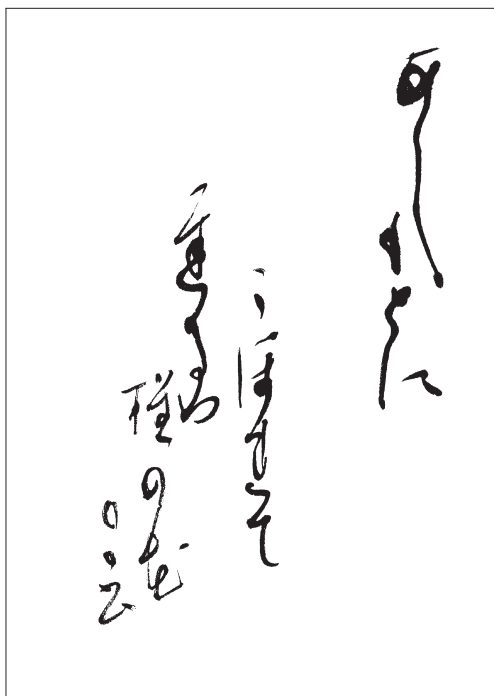
半 紙 課 題 (予 告) (六月二十二日締切)

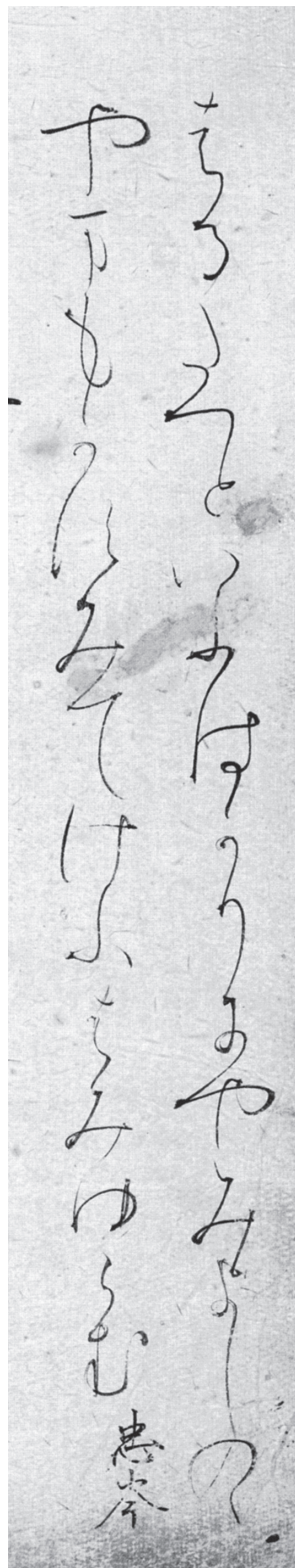
平岡華雪先生書 我が室思い邪無し(蘇東坡)



訳: 我すまいには邪念がない。

平岡華雪先生書 足もとにこぼれてちるや椎の花(李里)





条幅随意部として

『はるたつといふばかりにやみよしのゝやまもかすみてけふはみゆらむ』

半切二行に臨書する。作者名「忠岑」は入れない。七文字連綿（いふはかりにや）・五文字連綿（まもかすみて）に注意し、全体を緊張した線で書く。落款は、全体の調和を考えて「○○臨」と入れる。

※随意部参考（半紙・条幅）としてもご利用下さい。抜粋可。

条幅部は一枚目無料、二枚目から五五〇円。

バーコード券に「条臨」とご記入下さい。名簿は条幅部で「臨」と表示されます。

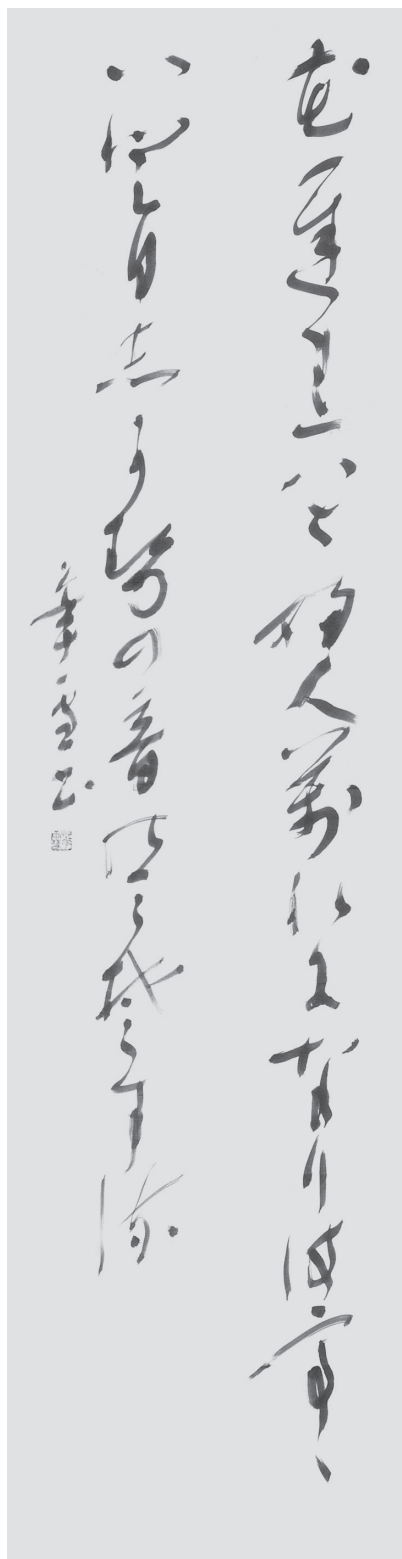
一字書（五月二十二日締切）

課題

碩

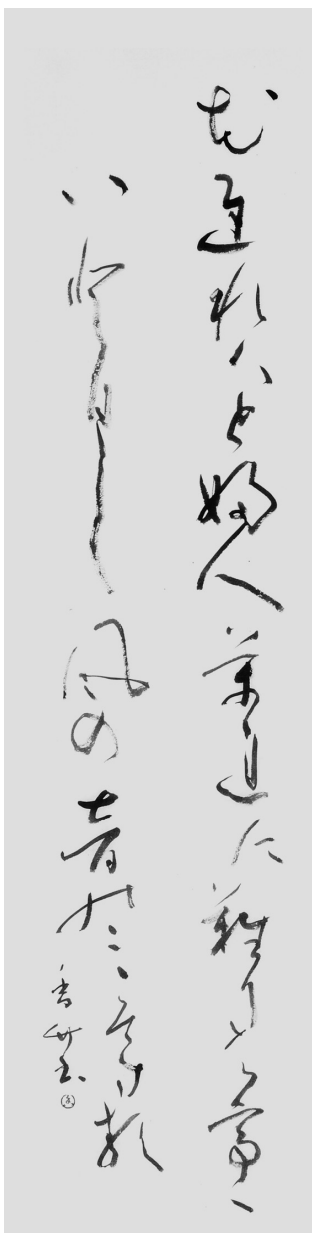
- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ ※ヨコは中止
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四四〇円
- (5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に
一字と記入 段級は無記入

A
平岡華雪先生書



花ちれば訪ふ人まれになりはてていとひし風のをとのみぞする (新古今和歌集) 花遅連八と婦人萬れなりは亭、い登日志可勢の音能三楚す流 刑部卿範兼

B
青柳香竹先生書



花遅れば八と婦人萬れなりは亭、い登日志可勢の音能三楚す流

刑部卿範兼

(藤原範兼 一一〇七)

一一六五年)

東宮学士。大学頭を勤

め、従三位刑部卿(ぎよ

うぶきょう)に至る。享

年五十八。「殿上藏人歌

合」などに出詠。千載集

にも初出。「和歌童蒙抄」

「五代集歌枕」を著す。

学 び 方

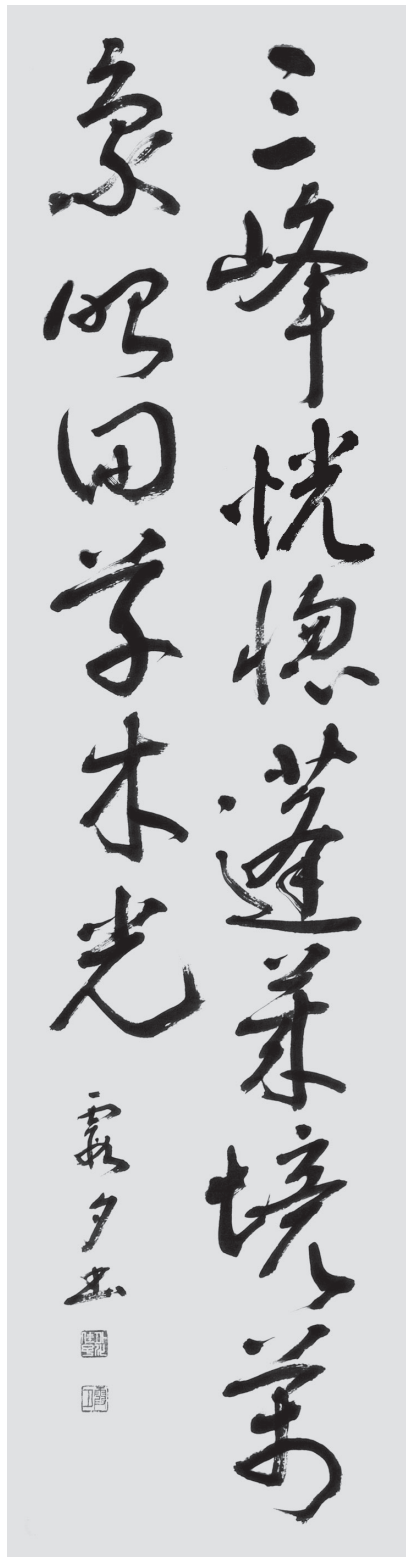
※歌意：花が散ると訪れる人はすっかり少なくなってしまい、これまで花のために忌まわしく思っていた風の音ばかりが聞こえることだ。
 今回は一般的な二行書きで仕上げました。二行書きでは行の変化はありません。そこで線質、文字の大小、抑揚と奥行、行の響き合い等、バランスを考えて変化を意識して下さい。例えば「と婦人」の幅のある部分に二行目は「い登日し」の幅の狭い字をもってきて、行の響き合いを考えるなど。
 なお、変体仮名を多く使っていますので、それぞれ書きやすい、そして前後のつながりを考えて、御自分の好きな変体仮名を選んで書き込んでみましょう。

予告 (六月二十二日締切) 河原来てひとり踏み立つ午どきの風落ちしかば砂のしづまり (宮柊二)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

外川霞夕先生書

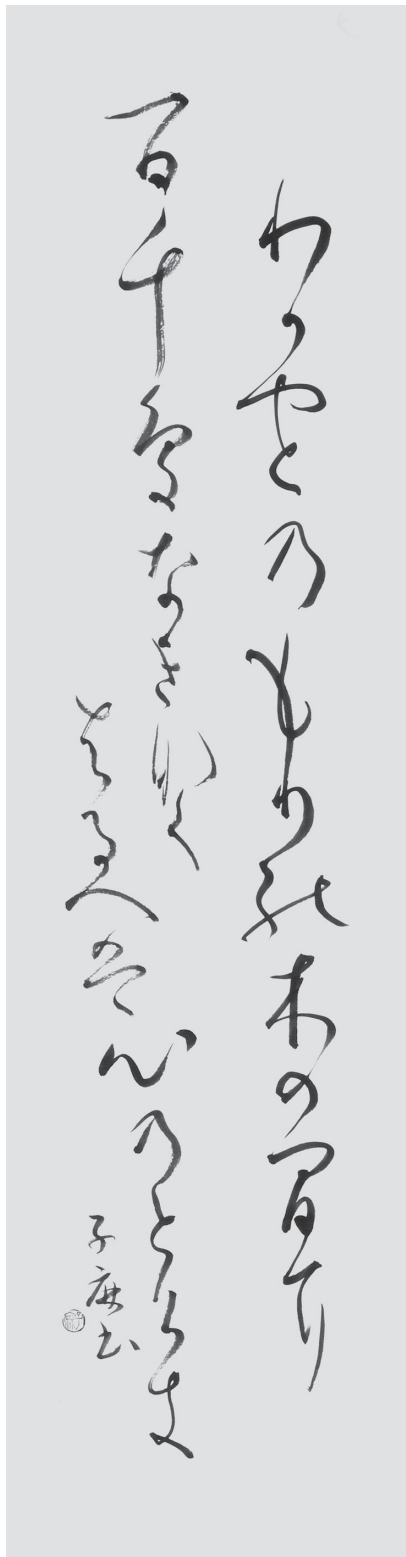
三峰恍惚蓬萊境 萬象昭回草木光（吳全節）
三峰恍惚蓬萊の境、万象昭回草木光く。



訳：三神山が恍惚として蓬萊島をも想わしめ、あらゆる物は天に随って廻る光のために草木までが光輝を増す。

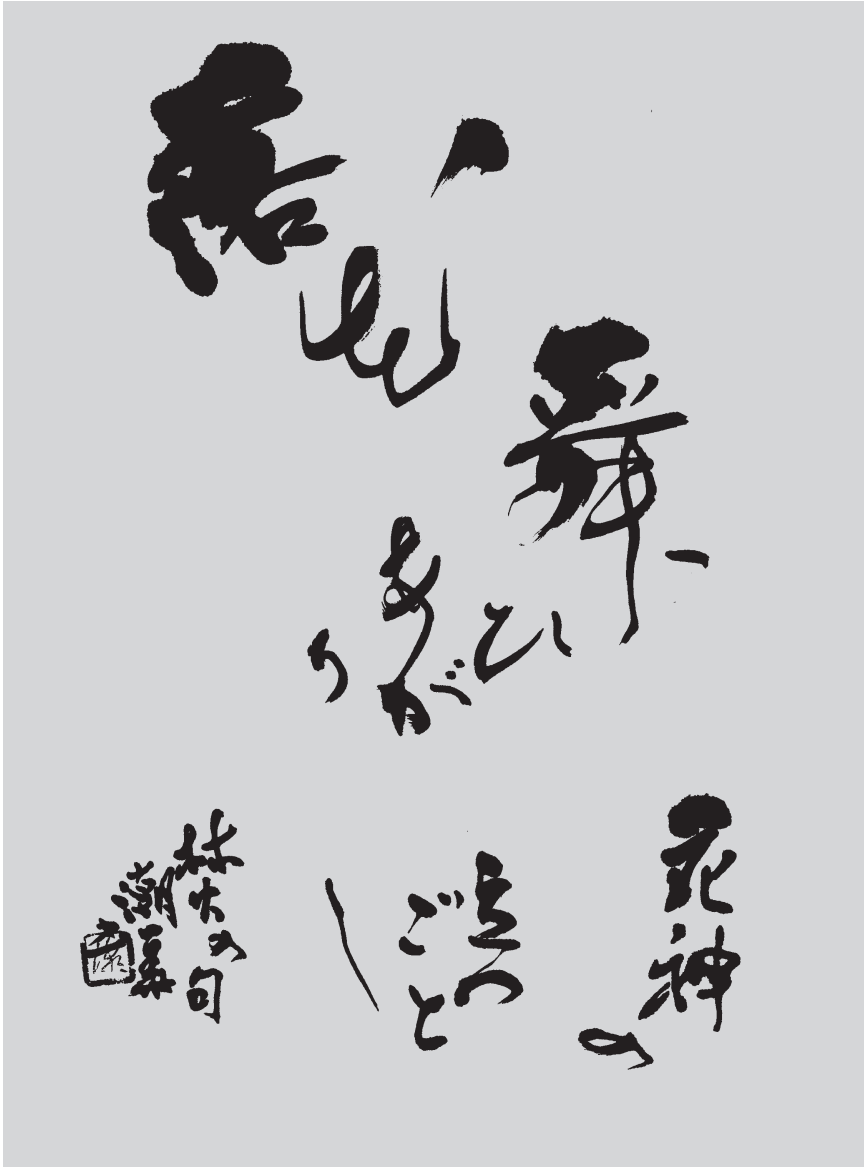
林子麻先生書

わが宿のもりの木の間に百千鳥鳴きなくはるべは心のどけき（田安宗武）
わが宿のもりの木の間に百千鳥鳴きなくはるべは心のどけき（田安宗武）
わが宿のもりの木の間に百千鳥鳴きなくはるべは心のどけき（田安宗武）



- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

水貝潮華先生書

落花舞ひあがり花神の立つごとし
(大野林火『方田集』)

今月の課題は大野林火の吉野での作の俳句を選んでみました。タップリとした墨量で、句に合わせ、花が舞い落ちる様をイメージし、大字と小字の組み合わせの構成としました。

そして、落款の入れ方も、自然と句に溶け込むように三角形の塊として書き込んでいます。皆さんも、ただ文字を並べて書くのみではなく、各自で紙面の構成を考え、それに合わせた文字の大きさ、墨量を選択し、独自の作品を創作してみてください。

大野林火(一九〇四〜一九八二)俳人。

横浜市生まれ。

東大経済学部卒。

臼田亜浪に師事、

「石楠」に入会。

都会的な洗練された叙情性豊かな句で登場。俳論にもすぐれた業績をあげる。昭和七年長男と妻を相次いで失い、人生凝視的な傾向を深める。戦後、「濱」創刊・主宰。「俳句研究」編集長。句集「海門」「冬雁」など。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料550円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

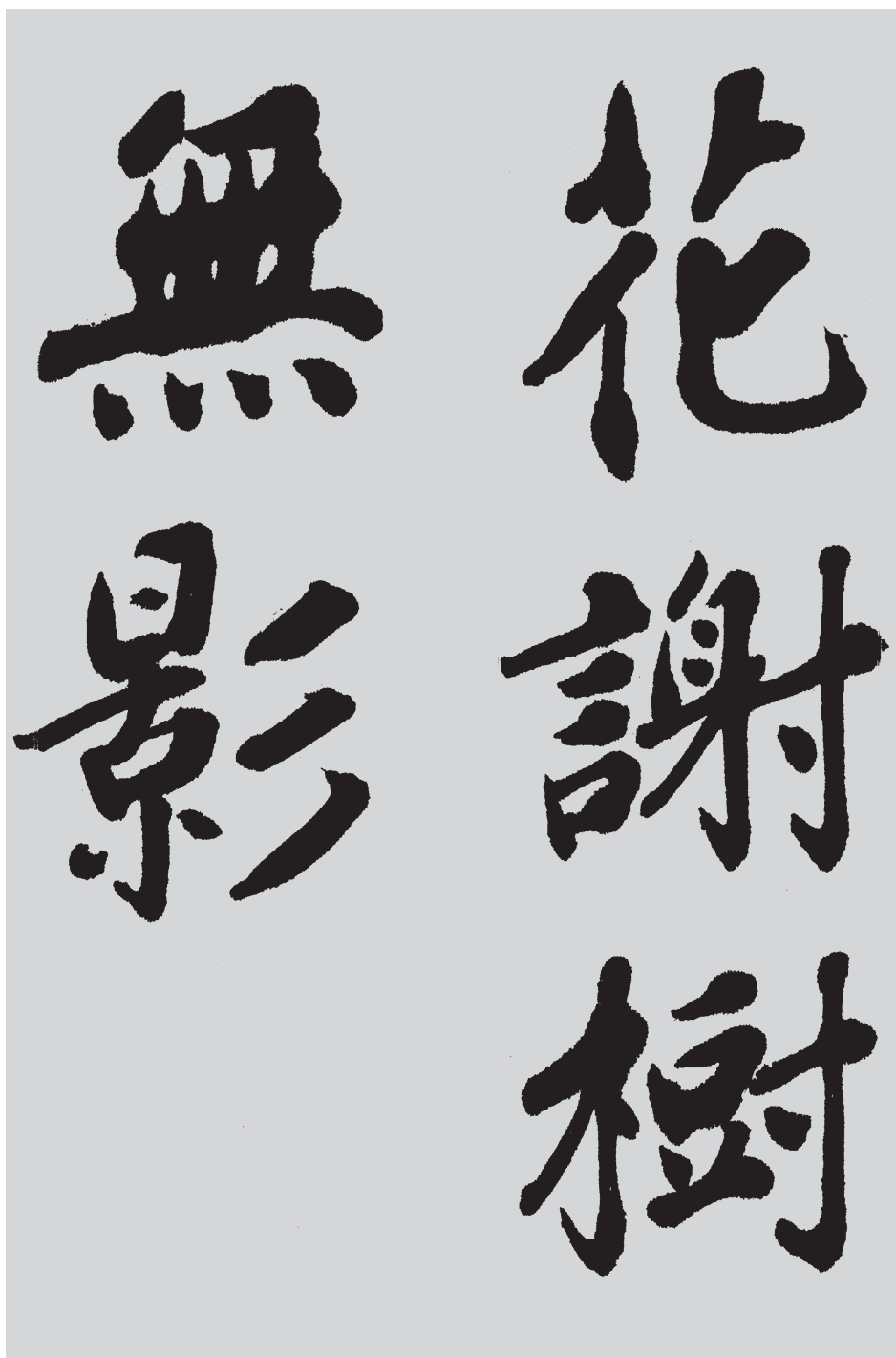
平岡華雪先生書

花謝し樹影無し。

訳：迷いの花落ち明暗の影なし。(妄念のない形容)

〔長縦画こそ生命〕

「謝・樹」には、それぞれ二つの長縦画があります。この主柱をビクビクせず、ピシッと決めたいものです。この画が弛むと失敗でしょう。



謝

樹

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は460円。

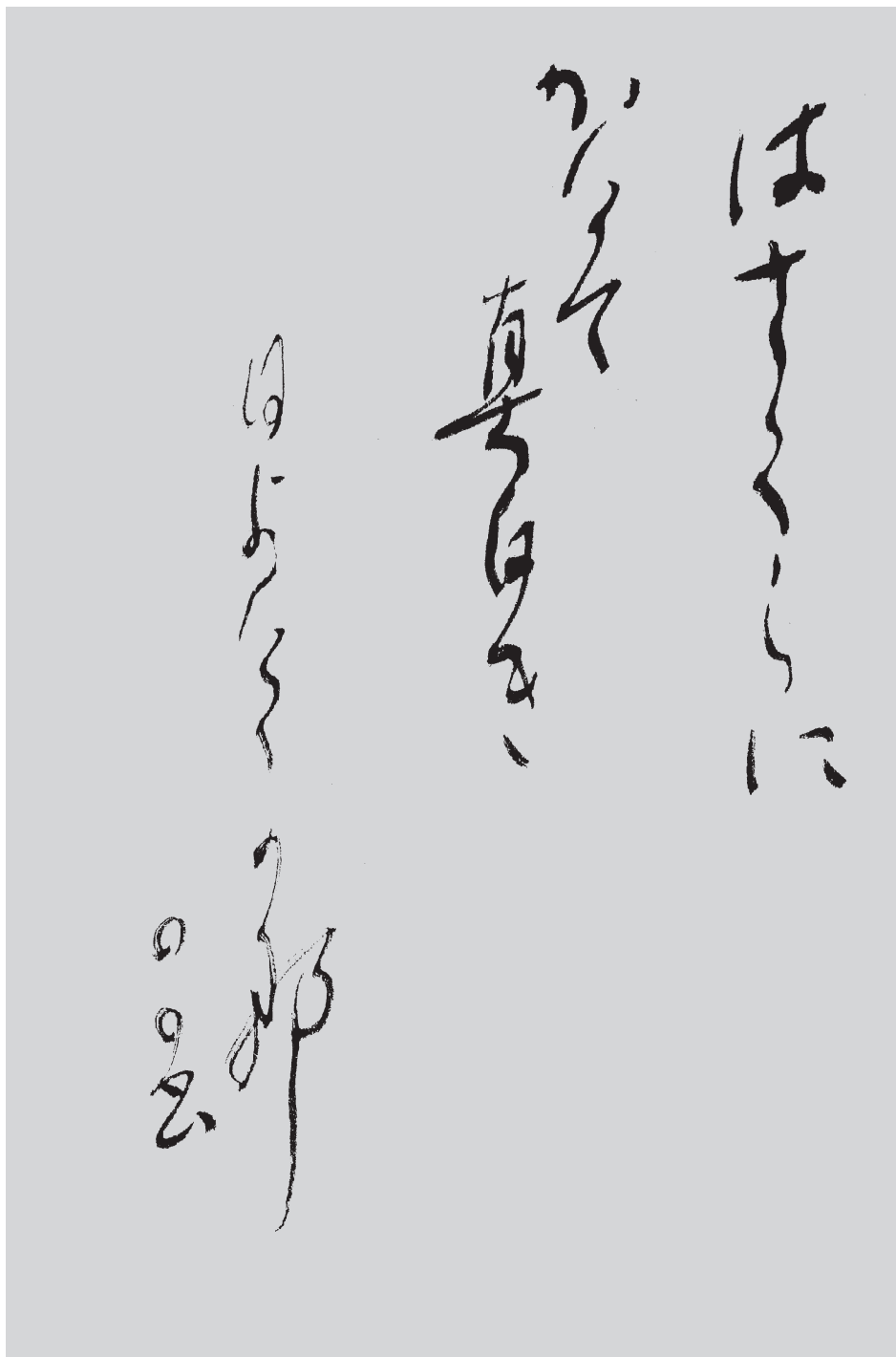
①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

葉桜にかけて真白き日よけかな（鬼城）
はさくらかけて真白き日よけかな

〈快い挑戦を〉

構成的には、三群。中央二行が主調。筆庄（抑揚）の浮沈に注目すること。華雪先生が時折試みの一筆書き。左行は筆を立て、細目にリズムに乗せ、「可那」と大きく、しかも末画を長めに、余白を形づくっている。みなさんも、「ひとふで書き」に挑戦してみてください。

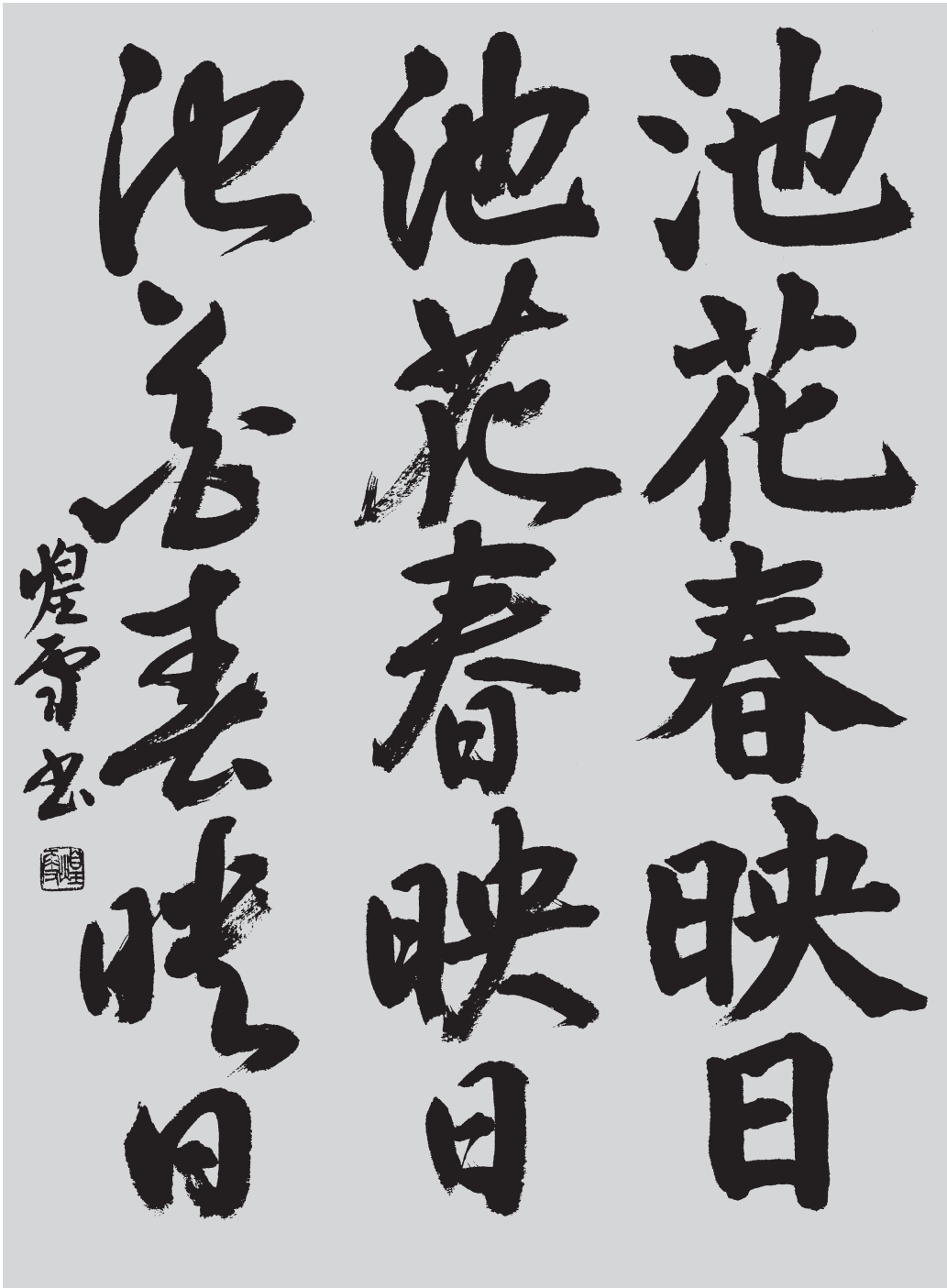


◆注意…はじめて出品される方は私製の紙（3×4 cm位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は460円。

①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

星野煌雪先生書

池花春映日（李白）
池花春日に映じ



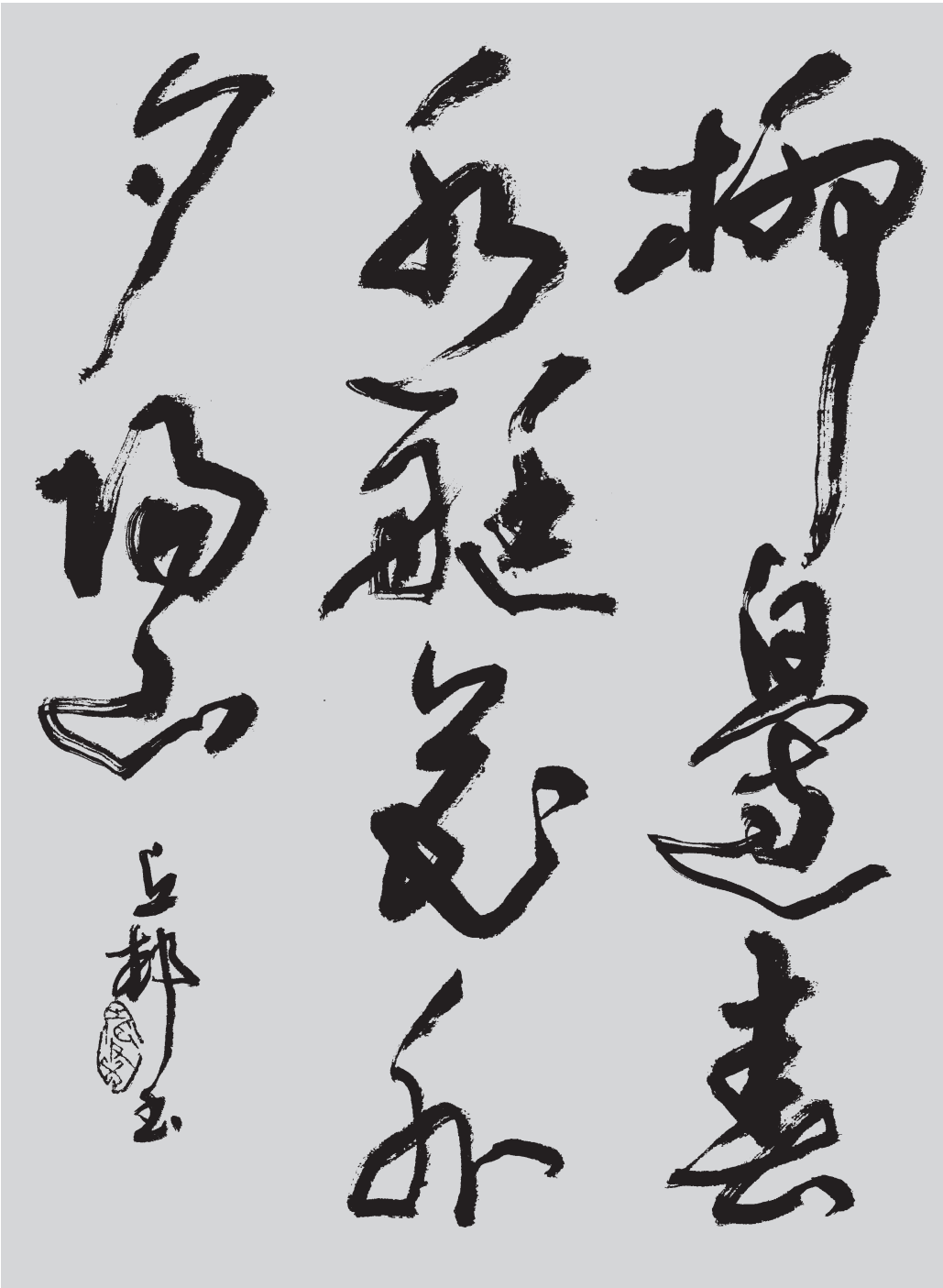
訳：池のほとりの花は、春には日の光をうけて明るく映え、

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は460円。

随 意 部 参 考

戸 張 丘 邨 先 生 書

柳邊春水艇 花外夕陽山 (張珍)
りゅうへんしんすい てい、かがいせきやう やま
柳辺春水の艇、花外夕陽の山。



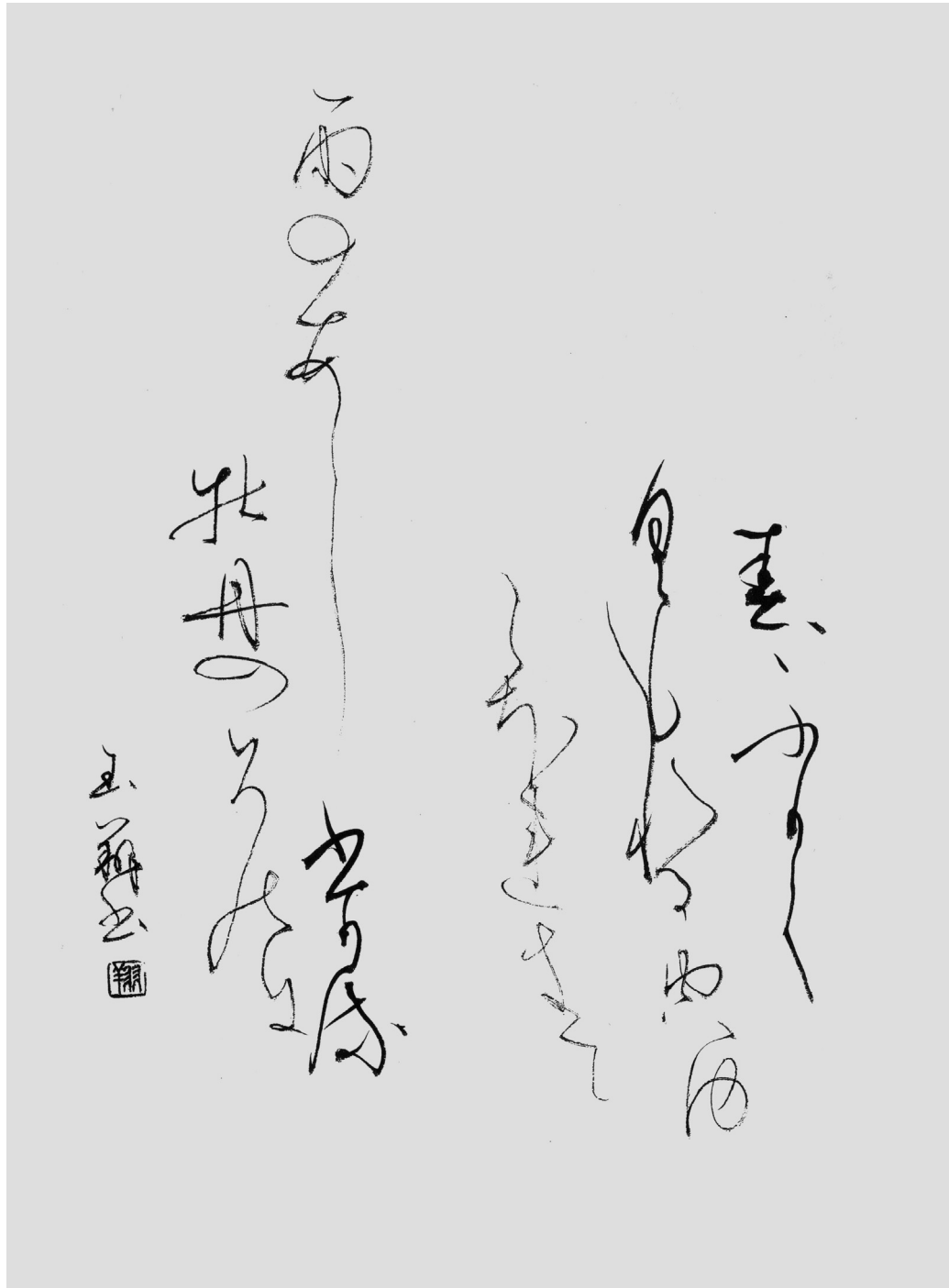
訳：揚柳の垂れるあたりの川には小船が浮んでいる。花咲くそばには夕日の山が聳えている。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は460円

随 意 部 参 考

福
田
玉
翔
先
生
書

春ふかく曇れる空ゆこぼれ来て雨の脚光る牡丹の園に（木下利玄）
春ふかく具もれる空ゆこ本連支て雨のあし非可流牡丹の曾能尔



1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は460円

赤木典子先生書

川上香蓉先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)

正教授 創作部門(自運作品、自由形式) 出品。

花に鳴く鶯、水に棲む蛙の
 声を聞けば、生きとし生ける物、
 いづれか歌を詠まざりける。

今はちようど若葉が美しく出そろって、
 その間に太古以来の太い杉や檜の直立しているのが目立つ。藤の花が真盛りで、
 高い木の梢にまで紫の色が見られた。

課題1 (初段階以上)

今ほちようど若葉が美しく出そろって、その間に太古以来の太い杉や檜の直立しているのが目立つ。藤の花が真盛りで、高い木の梢にまで紫の色が見られた。
 (『古寺巡礼』和辻哲郎)

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に、次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (4) 受験料は一、〇二〇円
- (5) 添削希望者は直接担当の先生にお申込下さい。(返信用封筒に自分の住所・氏名を記入し、切手を貼って同封のこと。)
- (6) 課題1 九九〇円
- 課題2 五五〇円

課題2 (初段階以下)

花に鳴く鶯、水に棲む蛙の声を聞けば、生きとし生ける物、いづれか歌を詠まざりける。

(『古今和歌集 仮名序』)